

高温障害対策のため 例年より早く収穫作業・乾燥調製施設の 稼働計画を立てましょう！

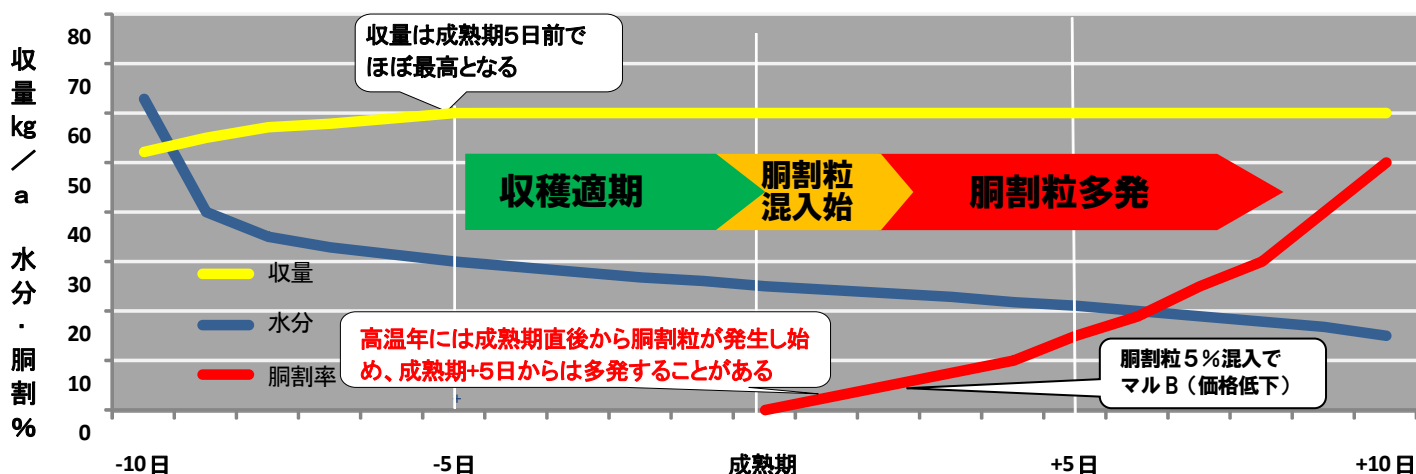
長野県農政部農業技術課

「コシヒカリ（中苗）」の収穫開始予測（7月13日現在）は、5月5日の田植え・松本地域の標高550mのほ場では、8月27日と予想されます。ただし、今後、平年より気温が高い日が続くと、さらに生育・収穫適期が前進すると予想されます。

また、気象庁の1か月予報（7月16日発表）では気温が平年より高い確率が60%となっており、高温登熟による白未熟粒や刈遅れによる胴割粒の発生が懸念されます。

そのため、出穂後も適度な土壌水分を維持し、刈遅れとならないよう適期収穫に努め、1等米比率全国一位を目指しましょう。

【図 水稻の収穫時期による収量、品質への影響】



【出穂期～収穫期に行う対策】

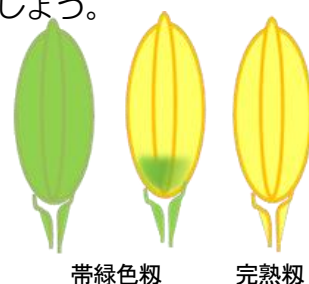
① 適正な水管理を！

- ・イネの登熟には水が大切です。登熟期の水田は干し上げることなく、間断灌水を行いましょう。水利条件が良い場合は、必要に応じて出穂以降10～14日間のかけ流しを検討しましょう。また、午後から夕方にかけてゆっくり灌水することで、水温・地温を下げるができます。
- ・出穂後、落水を早めると胴割粒・白未熟粒が多発します。
- ・収穫前の落水後にほ場が乾きすぎた場合は「走水」で水分を補給しましょう。
※土壌が乾きやすい砂質の水田では特に要注意です。

② 収穫・乾燥調製の計画は早めに！

- ・高温に備え、コンバインや乾燥調製施設の準備、整備は早めに行いましょう。
- ・最新の刈り始め予測情報★を確認しましょう。

★予測情報は、支援センターのホームページなどで公開中



③ 適期刈り取りを厳守しましょう！

- ・刈り始め予測情報を参考に、帯緑色籾歩合を確認しましょう！
たいりよくしよくもみぶあい
※高温の年は、茎葉が緑色のまま籾が先に成熟する場合があります。葉や茎の色ではなく、「籾の色」を確認して刈り始めましょう！

「帯緑色籾歩合」⇒1穂内の籾に占める緑色の籾の割合
☆刈取判断の目安

- 15%：あと5日程度で刈り取り開始
- 10%：刈り取り開始！（これ以上収量は増えません）
- 5%：成熟期。これ以降は穂先から胴割米が発生！
- 2%：刈取り晩限。これ以降は胴割れが急増！
- 0%：完全な刈り遅れ！

斑点米カメムシ類対策

最近、カメムシ類に吸汁されて生じる「**斑点米**」による**品質低下**が目立ちます。以前は特定の地区や品種の被害だけでしたが、近年は**被害が広範囲に拡大**しています。

斑点米カメムシ類対策を実施し、長野米の品質向上につなげましょう！



斑点米

※斑点米カメムシ類では、全県でアカヒゲホソミドリカスミカメが最も多いですが、近年はアカスジカスミカメも拡大してきました。

※その他の斑点米カメムシである、ホソハリカメムシ、アカヒメヘリカメムシ、クモヘリカメムシが多い地域もあります。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

対策のポイント

① 畦畔雑草管理

- 畦畔の草刈りは出穂2週間前頃までに必ず行いましょう。出穂間近や登熟期（特に乳熟期～糊熟期）に草刈りを行うと、畦畔にいたカメムシ類が水田内に移動して、粃を吸汁してしまいます。やむをえず出穂期前後に草刈りを行う場合は殺虫剤の散布直前に行いましょう。
- その後は水田にカメムシを追い込まないよう、原則として草刈りは実施しませんが、草刈りを行う場合はイネ科雑草の穂が出る前に行いましょう。

② イヌホタルイ防除

- アカスジカスミカメの発生地域では、周辺の畦畔や雑草地のほか水田雑草（イヌホタルイ）も増殖源となるため、有効な後期除草剤を活用して水田内の雑草管理も徹底しましょう。

② 薬剤防除

- カメムシ類の防除は基本的には「出穂期から10日後頃」を目安に行います。さらに発生が多い場合は、その10日後に追加防除を行いましょう。高温により水稻の生育が進むと防除時期も前倒しになります。また薬剤や主要カメムシ種によって効果の高い散布時期が異なります。薬剤選択は県農作物病害虫雑草防除基準を参考にし、薬剤散布にあたってはミツバチ等への危被害防止に十分注意して下さい。

・詳しくは最寄りのJA、農業農村支援センターにお問い合わせください